

スタジアム音の測定方法とスポーツ観戦者の満足度に関する研究

A study of the satisfaction of the sports' spectators and a measurement method of the stadium sound

1K04B180-4

林 風太

指導教員

主査 木村和彦先生

副査 作野誠一先生

第1章 緒言

スポーツ観戦者はスタジアムでの試合の観戦を楽しむ一方で、スポーツ以外のエンタテインメント性を楽しんでいるともいえる。選手入場のファンファーレや選手紹介のアナウンス、サポーターの応援など、試合中のスタジアム内はフェスティバルを思い起こさせるような音に包まれている。そこで、スポーツ観戦者がスタジアムで感じるエンタテインメント性や雰囲気には、音による影響があるのではないかと考え、スタジアム内での音の大きさ、種類を測定し、その音がスポーツ観戦者の満足度に影響を与えるかどうかの測定方法の検討を行うことにした。

本研究において、スタジアム内で試合を観戦しているときに聞こえてくる音の種類を大まかに区別するために、スタジアム内の音についての定義付けを行った。4種類定義したうちの1つを例としてあげておく。(例)スタジアム音:スタジアム音とは、スタジアムで発生する音全般のことを指し、スポーツ観戦者ではない人の中にはこの音を騒音と判断する場合もある。

第2章 研究方法

1. 調査方法

(1) スタジアム音の測定

小型騒音計とビデオカメラによる試合中のスタジアム内の音の測定調査をした。

(2) インタビュー調査

調査日時 2007年11月11日(日曜日)

調査場所 日本平スタジアム

調査対象 JリーグJ1第31節 清水エスパルス 対 サンプレッチェ広島

調査方法 インタビュー調査

調査員数 6名

回収数 148人(総数)

調査時間 前半終了後のハーフタイム中(約20分)
試合終了後(約60分)

質問項目

Q1. 観戦者の属性(性別・年齢)、Q2. どちらのチームのファンであるか、Q3. 今シーズンの観戦回数、Q4. 本日の試合の点数、Q5. その点数をつけた理由(自由回答)、Q6. 本日の満足度、Q7. その評価の理由(自由回答)

2. 分析方法

(1) スタジアム音の分析

本研究に使用した騒音計が、スタジアム音が変化するのと同時に測定値を記録していくので、スタジアム音の移り変わりを記録するため、ビデオカメラで撮影した値をスロー再生して、その測定値を読み取り、記録した。

(2) インタビュー調査の分析

Q1、Q2、Q3、については全体の傾向を見るために、単純集計を行った。Q4、Q6については平均値と標準偏差を出すため、記述統計を行った。次に、ひいきとするチーム(ファン)の違い及び前半と後半の違いによる、試合の点数や満足度の違いを調べるため、クロス集計とカイ2乗検定を行った。そして、試合の点数と満足度の平均値の差を調べるため、T検定を行った。項目は、清水ファンの前半と後半、広島ファンの前半と後半、前半の清水ファンと広島ファン、後半の清水ファンと広島ファンについてである。最後に、Q5とQ7の自由記述をまとめた。

第3章 結果・考察

統計的な分析をした結果、ひいきとするチーム(ファン)の違い及び前半と後半の違いによる、試合の点数と満足度や、試合の点数と満足度の平均値の差などで、有意な差が見られるものがあつた。しかし、スタジアム音の測定値を分析した結果得られた情報から、スタジアム音がスポーツ観戦者のつけた試合の点数や試合の満足度と関係性があるとはいえなかった。本研究において、スタジアム音が観戦者の満足度に影響を与えるかどうかは、調査を通して実証することができなかった。

第4章 まとめ・今後への提言

音という分野は非常に奥が深いことを本研究で実感した。測定には、風や音の反射など様々な弊害があり、調査するときには十分注意を払わなければならないし、本研究のような1度きりの調査では完璧なデータを取ることはできない。より多くの試合でスタジアム音を測定し、試合のサンプルを集めることで、試合ごとのスタジアム音の比較や、スポーツ観戦者の満足度との関係などを調べることができるはずである。色々な試合の比較や、スポーツの種類別にスタジアム音を測定すれば、また違った結果が得られると考えられる。